



(今回のテーマ)は

## 5S定着化への取組み

お客様とお会いする時の参考情報としてご利用ください

金融機関の皆様が取引先工場を観て判断する場合のポイントは5Sの実施状況です。

「5S」は企業の「生き残り」の基礎だからです。「5S」の内容は「整理・整頓・清掃・清潔・躰(しつけ)」。こんなポピュラーな言葉でも、なかなか実効性を挙げている工場が少ないのが、現状です。

5Sの基本は、実際に手を使い、体を動かす3S(「整理・整頓・清掃」)。5Sといっても、要するに、3Sを繰り返し行うこと。ポイントは「繰り返す」ところにあります。

3Sを維持するのが2S(清潔・躰)です。3Sを繰り返して「清潔」に保つ、決められたことを正しく守る習慣が「躰」となります。

5S活動を始めると、職場の抵抗が山ほどでてきます。5Sをなぜやるのか理解されていないからです。成功の鍵は、なんのために5Sをするのかという目的、従業員の意識や目線を同じ方向に向けさせることです。従業員一人一人の意識や目線がバラバラ、目的がバラバラ、定義がバラバラ、活動がバラバラになると、5S活動は形骸化します。

多くの企業は、原価低減や設備稼働率の向上、生産性向上等に取り組んでおり、また、お客様から求められ、或いは対応しなければならない多くの経営ニーズを抱えています。

5S活動はそれに対応するための基礎的活動となります。

5Sがどのような効果をもたらすかという点に関し、「工場7ゼロ思想」という考え方があります。

多品種化に対し「切替えゼロ」、 いろいろ問題を起す在庫問題に対し「在庫ゼロ」、  
コスト削減に対し「ムダゼロ」、 品質保証に対し「不良ゼロ」、  
生産保全のため「故障ゼロ」、 納期短縮のため「停滞ゼロ」、  
安全第一のため「災害ゼロ」、 という7つのゼロベースという考え方です。

その結果「クレームゼロ」で会社の信用が向上するというものです。

5Sの意味を社内で十分に理解し、会社全体での取組み、体制づくりが必要です。

(参考情報) 「JRS経営情報」の中から、次に掲げるようなコンテンツを参考にしてください。

5Sの基本は3S

(01051522)

5Sは企業の「生き残り」の基礎

(20070211)

環境変化に対応する「工場7ゼロ思想」

(20070212)

なぜ活動が形骸化するのか/失敗する5つの要因

(20070213)

( )内は情報番号です

皆様が、お客様から相談を受けた時、「JRS経営情報」をちょっとした参考情報として提供されればお客様から喜ばれることは必定です。

なお、お客様にコンテンツをご提供する場合には、最初のページに「サンプル」と表示してください。また、お探しの情報が不明の場合は、ご照会ください(0120-89-0240)。